

藤田嗣治や大観、青邨… 巨匠の名画 不朽の輝き

県美術館 岐阜信金100周年、所蔵展開幕



岐阜信用金庫所蔵の数々の名作が並ぶ「創立100周年記念岐阜信用金庫秘蔵名作選」
＝26日午前、岐阜市宇佐、県美術館（撮影・山田雄大）

員は「どれも優しい作風というコレクションの性質がある」と解説した。オープンと同時に約100人が詰めかけ、会場で熱心に耳を傾けた。

4月6日午前10時と午後2時には同館学芸員によるギャラリートークが行われる。

岐阜信用金庫（本部・岐阜市神田町）の創立100周年を記念して、所蔵絵画を紹介する展覧会「岐阜信用金庫秘蔵名作選」（同金庫、岐阜新聞社、岐阜放送主催）が26日、岐阜市宇佐の県美術館で始まった。藤田嗣治や横山大観、前田青邨といった巨匠の名画67点が展示されている。4月14日まで、入場無料。

同金庫が所蔵する700点超の中から厳選公開。普段は本部ビル内に展示・収蔵されており、これだけの作品が一堂に一般公開されるのは創立80周年時の記念展以来20年ぶりとなる。

会場には、安井曾太郎の「北京風景」、梅原龍三郎

の「裸婦図」、大観の「三保乃霊峰」などのほか、川合玉堂や加藤栄三、東一兄弟ら巨匠の傑作がずらり。特に目を引くのは、藤田嗣治の「婦人像」。パリ派を代表する画家として、西洋画壇の絶賛を浴びた「乳白色の肌」の美しさに、来場者が足を止めて見入っていた。

オープニングイベントとして、同金庫の好岡政宏理事長と岐阜新聞社の杉山幹夫最高顧問らによるスペシャルトークがあった。好岡理事長は、画家の自立を支援しながら購入してきた同金庫の絵画収蔵の歴史を紹介しつつ「100周年の節目に、ぜひ皆さんに楽しんでいただけたら」と語った。

杉山最高顧問は「各画家それぞれの代表作ばかり」と称賛。同館の廣江泰孝学芸